

令和2年度事業・活動報告

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

【事業の成果】

今年度、旭川 NPO サポートセンターは、旭川市市民活動交流センターCoCoDe の指定管理第3期目を受託することができました。しかしながら新型コロナ感染拡大の影響で北海道では緊急事態宣言発令がなされ、CoCoDe も休館を余儀なくされました。休館が解除されたあとも企業・NPO・市民活動団体すべてが事業や活動を自粛せざるを得ない状況に置かれ、CoCoDe の利用も激減しました。

そのような中でも、感染対策をしながら、市民が参加できる事業を実施することができました。

オンラインでの会議や講座も普及し、新たなスタイルでの活動に転換を進めなければならない状況になってきており、そうした対応ができるように体制を整えてきました。

■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



青空マルシェ and フリーマーケット

【事業期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【事業内容・事業成果・課題等】

1)施設の使用承認／管理運営／維持管理について

1)施設の使用承認／管理運営／維持管理について

- ① 利用件数 2,613 件、利用者数 21,886 名、利用料金 5,114,712 円。
(前年度 利用件数 4,063 件、利用者数 66,430 名、利用料金 8,142,224 円)。
- ② コロナキャンセル件数 591 件、キャンセル分利用料金 3,735,940 円
- ③ 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

- ① 市民活動情報サイト登録 174 件 (前年度 174 件)
- ② 市民活動交流センター登録 (団体) 276 件 (前年度 276 件)
- ③ 市民活動交流センター登録 (個人) 0 件 (前年度 0 件)

3) 市民活動に関する情報収集・提供

- ① CoCoDe 通信の発行～毎月 900 部
- ② 利用者ニーズ把握のため、4 月と 10 月に指定管理者と利用者の代表、オブザーバーとして市担当課による利用者懇談会を実施していましたが、新型コロナ感染拡大防止の

為、実施を見送りました。

③ CoCoDe トークサロン 10/15 実施 参加 26 名

毎月行っていたトークサロンも、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、1 回だけとなった。オンライン参加も受付し、実施しました。

この日のトークサロンは、ゲストに大雪山カムイミンタラジオパーク構想ジオパーク専門員・旭川市地域おこし協力隊・ミンタラ探検隊隊長の岩出昌さんを迎え、「神居古潭ってどんどこ？」をテーマにお話しいただいた。

4) 相談・コーディネート

① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。

相談総数 139 件。(内訳：個人 18 件、市民活動団体 107 件、企業 14 件)。(前年度 88 件)

② 決算相談会 3/5, 3/12, 3/13, 3/16, 3/23, 実施 参加 7 名

アンカー税理士法人札幌の佐藤はるみ税理士を講師に迎え、NPO・市民活動団体を対象に毎年行っている決算相談会。今回は新型コロナウイルス感染防止のため、ZOOM、電話およびメールで個別に開催しました。(5 団体が参加)

5) 学習機会の提供について

① だれ一人取り残さないために～僕の国キリバスからのメッセージ～

11/13 実施

参加 27 名

日本キリバス協会の代表理事であるケンタロ・オノ氏をお迎えし、地球温暖化問題とキリバスの現状、そして SDGs についてお話しいただきました。環境問題に関心がある方が多く参加され、地域に新たな活動が生まれる可能性を見出しました。



② コロナ時代の Web 会議の進め方 11/21 実施 参加 13 名

ひがし北海道市民防災サポート代表の辻川実氏をお迎えし、市民活動団体の Web 会議初心者に向けて、定番ツールである zoom の使用方法や、トラブルの対処法などを学びました。模擬 Web 会議が好評でした。

6) 交流および協働の促進について

① 青空マルシェ&フリーマーケット 10/11 参加 200 名

CoCoDe のホール前屋外で、テントを張り、市内および近郊農家のとれたて新鮮野菜を販売する場を設けました。フリーマーケットも同時開催し、子ども連れの親子や、近くに住む市民が訪れ、野菜やお目当ての品を購入する姿が見られました。

② CoCoDe クリスマスランド 12/5~12/27 共用ロビーでの自由参加

毎年恒例のクリスマスマーケット&キャンドルナイトが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となりました。しかし、「少しでも市民の方々にクリスマスを味わってほしい」、「作品展示でクリスマスを盛り上げ、コロナを吹き飛ばしましょう」との思いから、クリスマス特別展示を開催しました。開催期間中は、自作のクリスマスオーナメントやメッセージなどを自由に展示できるスペースを開放し、作品の展示・閲覧でクリスマス気分を楽しんでいただきました。

③ 雪あかり 2/5~2/7、実施 共催での実施

例年、ボランティアの方達とスノーキャンドルを作成し、「あさひかわ雪あかり」をテーマに、点灯を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、例年通りの実施

を見送ることとなりました。それでも、ホール前広場に、大きなスノーマンを作成して、LED ライトでアイスクャンドルを点灯しました。

自主事業等について

① 青空マルシェ 8/9 実施 参加 50 名

COCODE のホール前屋外を使用して、テントを張り、市内および近郊農家のとれたて新鮮野菜を販売する場を設けました。

午前 9 時からの開催でしたが、9 時前より多くの市民の方が来場し、生産者とコミュニケーションをとりながら野菜を購入する姿が見られました。

■事業名 (旭川市及び周辺 7 町委託事業)

ファミリーサポートセンター

・上川中部子ども緊急サポートネットワーク事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



3 すべての人に
健康と福祉を



8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また 1 市 8 町(本年度から美瑛町が加入)から受託した「上川中部子ども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、病児・病後児の預かり、臨時的・突発的なニーズに予め登録している地域の人が子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

1) 会員の募集、登録業務

2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報

新型コロナウイルス感染予防のため、周知広報は縮小され母子保健課乳幼児 4 か月健診時の対面事業説明は禁止となった。

3) 子育て支援者養成講座実施(「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座)

前期子育て支援者養成講座は新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催中止

日 程： 後期/10 月 20 日.22 日.23 日.26 日.28 日.30 日 参加者：33 名

講座数：13 講座、25 時間

4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整

5) 依頼時の相互援助の連絡調整



合同研修会「救命救急講習会」

6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっと合同研修）

合同研修会と交流会

日 時：令和2年12月7日(月) 10:15~12:00

場 所：旭川市市民活動交流センター1階ホール

「ファミリーサポートセンター事業説明」

講 師：旭川市子ども総合相談センター 宇野 義行氏

「ボディメイク ストレッチ」～柔軟な身体を目指して～

講 師：バレエ講師 大山 真理子氏

参加者：25名

7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議

8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施

9) 提供会員のレベルアップ講習会実施（「上川中部こども緊急さぼねっと」合同研修）

「救命救急講座」

日 時：令和3年3月17日(水) 10:00~12:30

場 所：旭川市市民活動交流センターCoCoDe ホール

講 師：田中 久子氏（日本赤十字社幼児安全指導員）

参加者：41名

10) 月毎に市へ報告及び助成請求

11) 年1回通信「育輪」発行

【事業成果・課題】

1) 会員数	依頼会員	1,394名
	提供会員	213名
	両方会員	47名
	総会員数	1,654名

2) 依頼総件数 3,213件（キャンセル 255件）

援助総件数 2,958件（H30年度 2,857件）

①	保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	976件
②	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	981件
③	学童の登校前の預かり及び送り	139件
④	学童の放課後の迎え及び帰宅後の預かり	79件
⑤	学童保育前の預かり及び送り	24件
⑥	学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	218件
⑦	子供の習い事等の場合の援助	361件
⑧	保育所・学校等の休み時の援助	17件
⑨	冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の場合の援助	0件
⑩	保護者等の外出の場合の援助	71件
⑪	その他	92件

◎上川中部こども緊急さぼねっと

【事業内容】

- 1) 利用会員拡大のため、1市8町及びハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
美瑛町出張事業説明会 会場:美瑛町保健センター
①令和2年4月21日(火) 参加者 8名 美瑛町職員他 5名
②令和2年8月26日(水) 参加者 11名 美瑛町職員他 4名
- 2) 3)5)6)7)9)10)11)はファミリーサポートセンター「育児型」合同事業内容
- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員登録及び更新手続業務
- 8) 月1回「すりーAの会」実施(開催日不定)
開催:4回(研修会、意見交流会等) 参加者 26名

【事業成果・課題等】

- 1) 会員数

利用会員	1,588名
スタッフ会員	185名
総会員数	1,773名
- 2) 依頼総件数 1,546件 (キャンセル 255件)

コーディネート件数	1,291件	(前年度 1,384件)
病気預かり	92件	宿泊 16件
元気預かり	1,086件	送迎 97件

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないままの1年であった。

新型コロナウイルス感染拡大予防策として緊急事態宣言が出て、子どもたちは休園休学を余儀なくされた。その状況下で親御さん、子どもたちはどのような生活を強いられたのか想像以上であったと思われる。そこで前期子育て支援者養成講座が中止になったため親御さん方は緊急事態宣言のあった4月～6月どんな困りごとがあり不安や悩みの中で子育てしながら過ごしていたのか、登録者全員(1200名)にアンケート調査を行った。3割の方々から回答をもらい、ご意見・要望等をまとめ、旭川市子ども総合相談センターに今後の参考にしよう配布した。また、ファミリーサポートセンター事業周知活動として旭川市母子保健課乳幼児4か月健診時の待ち時間に「ファミリーサポートセンター」紹介のパンフレット配布と事業説明も中止となった。今後も子育て世代に安心安全なサポートが提供できるよう橋渡しに努めていきたいと考えている。

■事業名 (旭川市委託事業)
旭川市母子家庭等日常生活支援事業
■NPO法人旭川NPOサポートセンター



【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

① 利用者数

利用会員登録	29名
家庭生活支援員	10名
子育て支援員	30名

② 利用状況 159件 (前年度 189件)

生活支援	92件	(前年度 183件)
子育て支援	67件	(前年度 6件)

本年度は子育て支援が多くなっている。ご本人からの依頼ではなく、旭川市子ども総合相談センターや旭川市精神福祉課、そして厚生病院地域医療課等からの依頼で精神疾患のある親御さんが子育てに不安があるため子育て支援の依頼が多かったが、訪問すると生活環境も劣悪であり生活支援に繋いで行くこと多かった。

以前より緊急性を要する案件を中心的に支援して欲しいとの指導が入っていたが、慢性疾患があり数年継続して生活支援に入っていたが、家族の協力で生活環境を整えることができるということで終了した世帯もあった。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、それらの団体に対して活動の際の会場費の補助を行う。また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンに託児や、特技等でサポートを行う際のコーディネートをを行い子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【事業内容・事業成果】

新型コロナウイルス感染拡大予防のためほとんどの事業が中止になった。

- 1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。

会場費補助 118 件、 48,930 円

- 2) 育児サークル合同イベント（わんぱくフェスティバル）中止。

- 3) 育児サークルへの支援員の派遣

支援員派遣数 7 件 支援員派遣者数 12 名

- 4) 育児サークル事業説明会中止

- 5) 子育てサロンへの支援

会場費補助 28 件、 40,310 円

支援員派遣数 1 件、 支援員派遣者数 1 名

- 6) 子育てサロン意見交換会中止

- 7) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

支援員派遣数 21 件、 支援員派遣者数 23 件

- 8) 子育て人材バンクの登録 79 名

- 9) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満 3 歳で幼稚園入園可能なこともあり、特に本年度は会員不足でサークル休会や解散があった。子育て中の親御さんにとって、現にあるサークル活動が魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。また、障がいを持つお子さんのサークル活動が今年度で終了予定のところがあり、出来る限りサポートをしていきたいと思っているが、継続者がいなければ運営が困難なのであろう。残念である。子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたいと思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催が例年の 1/3 と激減、サロンの主催者側にとっては非常に残念な想いの年となった。

■ 事業名 (社団法人北海道医師会)

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業

■ NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】平成31年4月1日～令和2年3月31日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぼねつとに準ずる。

登録医師 19名
利用者数 4名
利用件数 11件

登録にあたっては、上川中部こども緊急さぼねつと登録時に情報提供し、入会登録を促す。

旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの発行利用券も使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整えられつつある。その他研修等の集団託児が可能である。

■事業名（旭川市委託事業）

旭川市産前・産後ヘルパー事業従事者向け研修業務
及び旭川市産前・産後ヘルパー事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

研修業務は旭川市産前・産後ヘルパー事業に従事するヘルパーが、産前・産後の支援や子育て支援に関する必要な知識や技術を習得することにより、ヘルパーの資質の向上を図ることを目的とする。

また、ヘルパー事業は妊娠中及び出産後、母親の体調不良等のため、家事や育児の援助を必要とする家庭にヘルパーが支援を実施することにより、子育て家庭の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

【事業期間】

令和2年7月1日～令和3年3月31日

1) 旭川市産前・産後ヘルパー事業従事者向け事業説明会及び研修会

日時：令和2年8月5日（木） 9:00～12:00

会場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe ホール

内容 1. 産前・産後ヘルパー事業説明

旭川市子ども総合相談センター 上出 千枝氏

2. 講話「産前・産後のママと赤ちゃんの理解」

実技 新生児の扱い・沐浴の仕方

講師：母子育児相談室 きらり

助産師 山崎 幸子氏

参加者：41名

委託先4事業者：旭川大丸ケアサービス(株)、産前・産後ヘルパーあーちゃんの手
保育サポーターあいあい、旭川 NPO サポートセンター

合計登録者：72名

2) 利用の申込みを受付け、事業説明

3) 初回時面談（聞き取り）

- 4) サービス実施、自己負担額の徴収（500円）
- 5) 月毎に実施報告及び委託料請求
- 6) 令和2年8月から令和3年1月末の利用者とヘルパー従事者のアンケート実施

【事業成果・課題】

1回の出産につき20回（多児の場合40回）家事や育児に関するもので利用が可能である。希望する事業所に申込みをして家事や育児の支援をしてもらう仕組みである。

利用料金1回(2時間以内) 500円

利用人数：74名 利用延べ回数：214回

妊娠中及び出産後、母親は体調不良等から身体的・精神的に不安定になりやすい。この時期に家事や育児のサポートする事業が8月から始動した。当初周知広報の遅れもあり、利用人数が少ないと感じていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防中、自宅に人を招くことを躊躇するところもあったが、受け入れてもらったところでは母親に寄り添った支援をするので、もう少し早くから利用すると良かったとの声を聞き、ヘルパー従事者は感激していた。

また、アンケート結果から4社委託事業のためか支援内容にややばらつきがみられ、平準化の必要があると思うので支援内容の確認、修正を図った方が良いと思われた。

■事業名 食と学びで子どもを支えるこども食堂開設

■赤い羽根助成金事業



【目的】

コロナ禍で、学校が休校になったり、休み中でも外出自粛のため、なかなか外に出掛けられない親子のため「食と学びで子どもを支える子ども食堂」を開設しました

【事業期間】

令和3年1月～令和3年3月



【事業内容】

実施回数：1月23日、1月31日、2月6日、2月11日、2月20日、2月21日、3月7日

3月13日、3月21日、3月28日 計10回

実施時間：11：00～13：00

参加者数：延180名

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

【成果】

コロナ感染のリスクを抑えるために手作りではなくて、市販のお弁当を用意したため、お持ち帰りする親子もいました。高校生や市民ボランティアにより学習支援や遊びなども一緒にすることができ、親にとってはほっとする時間ができ、子どもにとってはお兄さんやお姉さんと過ごすことのできるもう一つの居場所となりました。

■事業名 北海道未来社会システム創造事業
空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業

■助成金事業

8 働きがいも
経済成長も



【目的】

旭川市には、生活困窮者相談支援窓口を訪れる人々が一昨年約 400 名以上おり、多くが対人関係を作る事が困難な方が多く、引きこもりや生活が乱れるなどし、経済的にも困窮しています。一方旭川市には約 2 万 3 千戸の空き家があり、社会問題となっています。対人関係を築くのが困難な生活困窮者にこうした空き家整理などを通じて対価を得ることにより、就労意欲を喚起し社会的自立を促します。

【事業期間】

令和 2 年 4 月 30 日～令和 3 年 3 月 31 日

【内容】

空き家整理事業に登録する 20 代～60 代までの生活困窮者が約 30 名おり、この方たちに空き家整理や、空家管理、草刈り、除雪などの作業を実施してもらいました。

相談受付数：延 45 件

作業人数：延 113 名

【成果と課題】

昨年からかかわっている生活困窮者の中から 1 名は就労に結び付きました。他の方も作業の回を重ねるごとに、指示がなくても自分から進んで動くようになり、意欲が見られる、生活が整いつつあるなどの変化が見られるようになりました。

■事業名

JR 宗谷線車内販売事業(主催:旭川市・旭川物産協会)

■協力事業

11 住み続けられる
まちづくりを



【目的】 JR 宗谷線周辺地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化や JR の利用促進、魅力アップを図る。今年度はコロナ感染拡大のため中止。